

新しい備品、こんなふうに使っています!

支援したへき地校や特別支援学校からメッセージ

青森県のむつ市立近川中学校へ贈ったのは、天板拡張くん、クリーナー、水書練習用紙です。「天板拡張くん」は、机の奥行きを拡張できるプレート。タブレットを使った学習では、机の上に教科書やノートなども置くと手狭になります。使用することで、机が広がるだけでなく、タブレットや教科書などの落下防止にもつながります。「快適に勉強できるよう希望しました」と先生は話しました。



北海道の積丹町立美国中学校が希望した充電式クリーナーは、吹奏楽部が利用している多目的室の掃除に早速活躍しました。床がカーペット敷きのため、掃除機が欠かせません。今まで使っていた掃除機は昭和50年代に購入したもので、ちょうど故障して困っていたそうです。

「大変助かりました。大切にに使わせていただきます」と感謝の言葉が書かれていました。



沖縄県宮古島市立伊良部島小学校があるのは伊良部島。沖縄本島から南西へ約330km、宮古島の西約8kmの距離にある島です。2015年に開通した、伊良部島と宮古島本島を結ぶ全長3540mの伊良部島大橋が観光スポットです。寄贈品はCDラジカセやCDポータブルシステムなど。この寄贈によって、各教室に置くことができ「朝の会や教科の教材などで重宝している」とのことです。



北海道の八雲町立熊石中学校から届いた写真は、ミシンを使って作品を仕上げている姿、ラインカーで引いた白線に沿って懸命に走る姿、ワイヤレスマイクを手に持って舞台上立つ姿……。いずれも今回寄贈した備品です。マラソン大会では「新しいラインカーのおかげで、コース設営の時間を短縮できました」。調子の悪かったマイクも新調し、「大盛況の文化祭になった」そうです。



9月に実施した運動会の様子を撮って送ってくれたのは群馬県の沼田市立多那中学校です。財団が寄贈したカラフルな万国旗のもと、小中学生と一緒にソーラン節を踊っています。子ども達の躍動感が伝わってくるようです。今まで使っていた万国旗は、老朽化してきたため新調したいと希望しました。「会場を華やかに飾ることができました」と先生は話してくれました。



カラー跳び箱を練習しているのは、秋田県立支援学校 天王みどり学園に通う小2の児童。体育の授業の一場面を切り取った写真です。カラフルな5段タイプの跳び箱は低学年の子どもたちにぴったりの大きさで、練習が楽しくなる色使いです。「大きな映像がとても見やすく、全校集会で大活躍」と先生が話すのはフロアスクリーン。大きなワイド型で、使い勝手は抜群のようです。



石川県の珠洲市立大谷小中学校からはワンタッチテントと竹馬を活用している写真が届きました。日本海を望む校庭で9月に開かれた運動会では、早速ワンタッチテントが活躍しました。これまで使っていた竹馬は潮風などの影響でさびてしまったといい、子どもたちは新しい竹馬に大喜び。「竹馬をしたことがなかった子もチャレンジしています」とコメントを寄せてくれました。



岡山県の新見市立神郷北小学校は県の北西部に位置し、北は鳥取県、西は広島県に面している新見市の神郷地区にあります。20人の児童のうち、18人がバス通学です。財団が贈ったボール類と一輪車は、休み時間になると子どもたちが夢中で使っているそうです。四線黒板は英文や単語学習で活用しています。「たくさんの教材は児童の技能の向上に貢献しています」と先生は話しました。



京都府の綾部市立上林中学校には机と椅子などを贈りました。数が不足していた音楽室とイングリッシュルームで使用しています。音楽室は、人数が多い学年は座学が難しく、他の教室へ移動して対応していました。そのため夏休みに全教職員で、棚や楽器を移動して改装。届いた机を早速搬入したそうです。「大切にに使わせていただきます」とメッセージがつけられていました。



クリーナーと、ワンタッチテントを選んだのは、富山県南砺市立平中学校。「立派な校舎のため、一人ひとりが担当する掃除場所が広い」と先生。限られた時間であらゆる場所を掃除するのに、モップでは間に合わなかったり、古い掃除機が壊れてしまったりと困っていたところでした。「丈夫な商品を頂けて良かった」と一安心。テントは陸上大会で、生徒が自分たちで組み立てました。



熊本県の天草市立倉岳小学校が希望した備品のひとつがメトロノーム。音楽の授業だけでなく、心臓マッサージの効果を高めるリズムをつかむ練習にも使用しました。逆上がり練習器は、背中と足の蹴り出す部分に補助があり、身体の回転をサポートします。これまでは、先生が補助をしながら練習していましたが、自分たちの力のできるため子どもたちの自信につながりました。



財団が贈った品物の寄贈式を開いてくれたのは兵庫県の養父市立建屋小学校。代表児童が一輪車、教頭先生が竹馬に乗って登場すると大きな拍手が上がりました。「子どもたちの顔は歓喜にあふれ、輝いて見えました」。ホールに展示された寄贈品を嬉しそうに手に取ったといいます。先生によると竹馬は初めてという児童が多く、「運動会や学年遊び等の機会に楽しさを伝えていきたい」そうです。



愛媛県新居浜市立別子中学校で役立っているのがグループボード。縦長のホワイトボードで、時系列で話を整理する時に重宝しています。学校には「別子ファーム」という農園があり、生徒たちは育てる野菜の種類や植える場所、収穫時期など具体的な計画を話し合っています。グループボードは、野菜の収穫から道の駅で販売するまでのスケジュールをまとめるために役立ちました。



長野県の小谷村立小谷中学校では9月に総合発表会がありました。ステージ発表で役に立ったのが、スポットライトとマイク。これまで使っていたライトは40年ほど前に購入したものでした。「今までよりも明るく照らすことができ、人の動きや表情を分かりやすく伝えられました」。マイクは「声をはっきり通るだけでなく、長いコードのおかげで使いやすかった」と喜んでもらえました。



ホワイトボードとデジタイマーを贈ったのは長崎県の五島市立三井楽中学校。ホワイトボードは合唱練習で、強弱のつけ方や曲のイメージなど、歌い方の工夫を学ぶことに役立ちました。10月に開催された町の文化祭で練習の成果を披露したそうです。デジタイマーはタイマーのほか、得点や獲得したセット数、サブ権などが表示できる機能もあり、部活動で活躍しています。

